



身近な
バリ
くらしの
バリ
情報誌
通信

BARIBARI
TSUSHIN

2022
AUTUMN
VOL.117

発行 四国ガス燃料
愛媛県今治市中寺226-1・TEL:0898-32-0725
<https://www.shikoku-gasnen.co.jp/>

木に触れて 木を学ぶ 集いの空間



徳島の名所、眉山、吉野川が木で表現されている。
吉野川を流れる木のためごは5万個。
その中に、木のどんぐりが100個混ざっているとか。見つけられるかな？



上：木で表現されたうだつのまぢ
下：様々なカラーリングのけん玉

館内に入り、靴を脱ぎ、荷物をロッカーに預けて身軽になったら、さっそく木の世界へ…。まず最初に鎮守の柱をイメージした美しいアーチを通る。館内は徳島すぎの香り溢れる心地良い空間が広がり、圧倒的な木の存在感に包まれる。

入ってすぐ見える広い空間は、「里山ひろば」。徳島のランドマーク、眉山と吉野川をイメージしてつくられている。各部屋に置かれている遊具は徳島県内各地の名所旧跡が木で表現されている。眉山、吉野川、かずら橋のほかにも、棚田、渦潮、うだつの町並みなどもある。

川の流れる卵型の木の球で表現さ

れているのだが、よく見るとどんぐり型のものが紛れているという楽しい仕掛けも。他にも、巨木のようなすべり台や、かずら橋をイメージした遊具で遊び、山を登ったり、川を泳いだり、子どもたちは大人が及ばない想像力で館内を存分に楽しんでいた。

また、一日数回稼働する「からくり阿波人形浄瑠璃」も見どころの一つだ。テノボのいい音楽に合わせて、からくり人形が動き出す様子に子どもたちは興味津々。他にも、実際の農村舞台を再現した「あさん農村舞台」もある。美術館を一周すると、徳島の歴史や文化に触れ、名所めぐりもできるのが面白い。

館内のおもちゃは自由に手に取って

「おもちゃ学芸員」と呼ばれる赤いエプロン姿のスタッフ。おもちゃ学芸員養成講座を受講し、木育の伝道師としてボランティアで活躍している。その年代は幅広く、この日も二十代から七十代くらいのおもちゃ学芸員数名が来館者のサポートをしていた。

温暖な気候と豊かな水系がある徳島県は、全国でも有数の「森林県」で

遊ぶことができ、特に人気なのが、見た目にも愛らしい木製のきのこや野菜、果物を収穫できる体験コーナーだ。まるで実際に手でもぎ取るような感覚が楽しい。また、徳島を代表する木の文化「遊山箱」に、布製の巻きすしや煮物などの料理を詰めて、おままごとのように遊べるコーナーは女の子に人気が高い。こまやけん玉などの昔ながらの懐かしい遊びも楽しめる。遊びの中で徳島の文化を学び、木工の素晴らしさを体験できるのもこの美術館の魅力だ。

遊び方やコツを教えてくださいるのは、「おもちゃ学芸員」と呼ばれる赤いエプロン姿のスタッフ。おもちゃ学芸員養成講座を受講し、木育の伝道師としてボランティアで活躍している。その年代は幅広く、この日も二十代から七十代くらいのおもちゃ学芸員数名が来館者のサポートをしていた。

自然あふれる徳島県立公園「あすたむらんど徳島」に昨年の秋「徳島木のおもちゃ美術館」がオープンした。木の伝統や文化を楽しみながら学ぶことができるこの美術館は「0歳から100歳まで楽しめる」がコンセプト。「木のおもちゃ」というと、子ども向けを想像しがちだが、大人でも十分楽しめる。



鎮守の柱をイメージした木のアーチ。

未来へつなぐ 木の文化 (徳島県板野郡板野町)

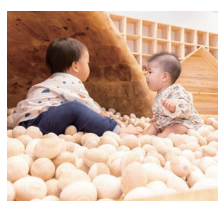


徳島木のおもちゃ美術館
県土の約4分の3を森林が占め、林業で地域経済の活性化を目指すべく様々な取り組みを行う徳島県。美しい自然の魅力、そして徳島の木の伝統や文化を、幅広い世代の方々に知っていただきたいという想いから「徳島木のおもちゃ美術館」は誕生した。

入館料 一般：800円、小中学生：300円、乳幼児以下無料
開館時間 9:30～16:30
休館日 毎週水曜日
(祝日の場合開館、翌日休館。8/12～15までの水曜日は開館)



グッド・トイひろばではアイデアいっぱいの木のおもちゃで頭の体操。



赤ちゃんが安全に遊べる木育ひろば。



「あすたむらんど徳島」ゲートエリア。



全長600m、お子さまでも楽しめるウォーターライド。



すべり台、クライミングネットを組み合わせた巨大大塔。



宇宙、自然、いのち…。いろいろな未知の体験ができる「子ども科学館」。



水と緑と光の交流拠点「あすたむらんど徳島」

あすたむらんど徳島は科学と自然にふれる大型公園。中核施設「子ども科学館」は、「科学技術と自然環境の調和」を共通のテーマとして、「宇宙と地球」、「生命と環境」、「科学技術と人間」の3つの展示テーマで構成。展示物は可動装置や実験装置、実演などを多く取り入れ、直接触れ、操作しながら「考えてみる」ことができる工夫をこらしている。ほかにもプラネタリウムや小舟に乗って移動するウォーターライド「吉野川めぐり」、親子で工作や実験が楽しめる体験工房など、楽しく学べるスポットが盛りだくさん。



板野郡までの交通【自動車】

- 松山ICから 松山自動車道～徳島自動車道経由…約2時間20分
- 徳島ICから 徳島自動車道経由…約20分
- 高松中央ICから 高松自動車道経由…約40分
- 高知ICから 四国横断自動車道/高知自動車道～徳島自動車道経由…約2時間



上・中：それぞれのエリアで、来館した子どもたちと触れ合うおもちゃ学芸員
下：ショップコーナーでは木のおもちゃを販売

県土面積の四分の三を森林が占める。林業で地域経済の活性化を目指すべくさまざまな取り組みが行われている。県の木を積極的に活用して森を元気にするために、二〇一二年に全国初の県産材利用促進条例が制定された。さらに二〇一九年には、西日本初の全国木育サミットが開催され、そのレガシーのひとつとして、徳島木のおもちゃ美術館プロジェクトがスタートした。「徳島木のおもちゃ美術館」は「東京おもちゃ美術館」の監修で全国各地に設立されている姉妹おもちゃ美術館のひとつだが、「県立」というのは全国で初めての試みだ。徳島県がいかにかに木の活用を大切にしているかがわかる。

豊かな森林は、美しい里山の風景をつくる。災害から人々の暮らしを守り、木材などの林産物を生み出すなど、我々の生活に多くの恩恵をもたらしている。こうした木から受ける恩恵や木の魅力、文化遊びを通じて考え、学ぶ機会を子どもの頃から持つのは大切なことだろう。ゲームやスマートフォンに馴染み、高性能でハイテクなおもちゃに囲まれている最近の子どもが、アナログな木のおもちゃで楽しめるのだろうか？という心配は杞憂だった。それぞれのコーナーで夢中になって遊ぶ子どもたちの姿はとても印象的で、大きな安心感に包まれていた。木の香りと、手触りにすっかり癒されてしまった。おもちゃ学芸員の登録者数が約二百名というのも納得。子どもだけでなく大人もこの空間に身を置く幸福を感じているのだ。



道の駅「いたの」

未来志向型道の駅「いたの」。旬の里の幸、川の幸、海の幸が集う特産物直売所、レストラン及び軽飲食コーナーのほか、農業支援研修室、地域情報コーナー、足湯、ドッグラン、レンタサイクル、EV急速充電器などを整備し、全国初となる道の駅併設の移動式水素ステーションも整備。大規模災害に備えるため道の駅構内にヘリポート、耐震性貯水槽、避難所兼備蓄倉庫の施設も備え、防災拠点として整備されている。

